

校長室だより

No. 15

平成28年7月20日(水)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず  
加 藤 嘉 一

1学期終了 ーありがとうございました 土井由香先生ー

1学期が終わります。通知表を読み、子供たちは一人一人がよく頑張ったと感じました。2年2組の土井先生が今日でお別れです。水鳥先生の育児休暇中の代わりの先生として、本校で約2年半お勤めいただきました。低学年の学習・生活指導の大変しっかりした先生でした。本当にありがとうございました。

子供たちの夏休みに期待すること ーSPシャボン玉液実験の失敗から学んだことー



今年誕生日にプレゼントしているSPシャボン玉液。子供に渡しているものと同じ比率で作ったもので人が入れることを、どこかで見せてあげたいと思っていました。暑い時期がよいと思い先週全学年で実践。わたしの失敗の数々を御報告。

【失敗1】

昔やった記憶を頼りに、前日からレジャーシートや枠にする大きめのフラフープと輪を作る小さめのフラフープ、子供が立つ台を用意準備万端に。プールの時期にやれば、すぐ水で流せるし手間がかからないだろうと考え、担任の先生方をお願いして、2・6年のプールの時間にお邪魔をしました。

ところが、さすが六ツ美。始まってみると風が時々吹き、シャボン玉が揺れ、割れてしまうという事態に遭遇。少し考えれば当たり前のこと。それにさすがちびっ子達でした。巨大シャボン玉のコーナーの横に手作り道具でシャボン玉を楽しむコーナーを用意しておいたら、遊ぶまではよかったです。腕にシャボン玉液を塗り始めたり、ぬるぬるした床で遊んだり。これらを水で流すのに担任の先生たちに大変手間をかけました。さらに、ビニルシートのしわがひだになってフラフープに液が浸りにくい状況となって一苦勞。人が入ることは一応できましたが、場所と道具の選択についての考えが浅はかでした。

【失敗2】

前回の反省から、風を避けるために場所を体育館にし、大きなシートと新聞をひいてやることにしました。また、稲垣先生が「子供用プールでやったこと

がある」とアドバイスしてくれたので、液を溜めるものをレジャーシートから子供用プールに変更。そして、いざ実験してみると……。前回と同じ比率で作ったSPシャボン玉液が、何度やってみても全くうまくいかないのです。

そうしているうちに約束していた時間に3年生が登場。青山先生に手伝ってもらいましたが、人の半分位の高さまでしか伸びません。焦りました。「洗剤や洗濯のりなどの比率を間違えたか」頭の中はパニックです。

放課の時間が終わってしまったので一度3年生の子には帰ってもらい、設置した道具から再検討。今回、プールを裏返した底面を使った関係で、シャボン玉液を溜めている部分が宙に浮き、一部に溜まる傾向がありました。「もしかして……」シャボン玉液がたっぷり浸らないことが原因だったのではないかと考えました。とするなら、液を溜める部分を床につければどうかと考えました。

ところが、またひとつピンチが訪れました。プールの高さを低くすると、今まで使っていた子供を真ん中で立たせる台が底面を突き上げ、液が溜められなくなるのです。また悩みました。子供が乗っても壊れない、ちょうどいい高さの台が体育館中探してもありません。「レジャーシートに戻さなければいけないか」と悩みました。そして、いい台がないか、校内を歩き回って探しました。

「これならいけるか？」と見つけたのが、ブロック塀に使うブロックでした。新聞を巻きプールの下にそっと入れてみると……。成功です！先ほどの高さとは比べものにならないくらい高くまでシャボンが持ち上がりました。

わたしは、過去にこの実験に成功したことがあるという記憶から、以前と条件が変わっているにもかかわらず、できると高をくくり、予備実験をしませんでした。また、書物やインターネットで再度実験方法を調べてはいたので、できる気になっていました。しかし実際にやってみるとこんなものです。知識というものは、たいしたことのないものだと思われ改められました。実際にやらないとみえないこと、わからないことがたくさんあります。そして、一番は失敗しながら自分で試行錯誤してやってみることほど頭を使うことはないと思われました。



たっぷり時間のある夏休みに、子供たちにも失敗をしながら何が失敗の原因かを考え、試行錯誤する経験をしてほしいと思います。書物やインターネットに書いてあることでもいいですから。当たり前と思っていることも当たり前ではないことが多いのではないのでしょうか。「知っている」はひとつの始まりです。実際に物を作る、やってみることが本当の「生きる力」につながると思います。